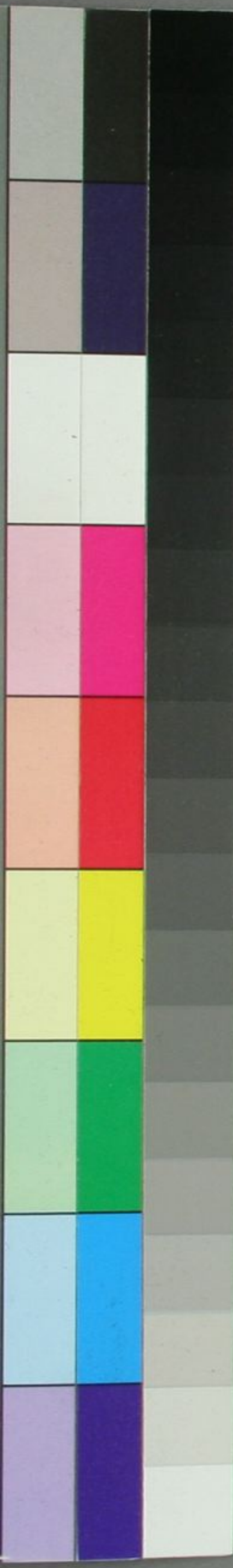


日吉奉納百首

1.102



Amesbury

正

利
1102
1

利  
1102  
卷



信  
日  
後  
社  
家  
前  
詠  
百  
首  
和  
詠



釋正徹

春二十首

立春

春  
を  
ら  
ぬ  
ふ  
ま  
の  
日  
に  
は  
新  
の  
ま  
は  
ら  
し  
め  
の  
あ  
は  
れ  
の  
こ  
ろ  
に  
あ  
は  
れ  
の  
こ  
ろ

雨

は  
ら  
ぬ  
ふ  
ま  
の  
日  
に  
は  
新  
の  
ま  
は  
ら  
し  
め  
の  
あ  
は  
れ  
の  
こ  
ろ  
に  
あ  
は  
れ  
の  
こ  
ろ

なまはらぬかたのねに  
まはらぬかたのねに  
なまはらぬかたのねに

か

なまはらぬかたのねに  
なまはらぬかたのねに

ま

なまはらぬかたのねに  
なまはらぬかたのねに

著

なまはらぬかたのねに  
なまはらぬかたのねに

梅

なまはらぬかたのねに  
なまはらぬかたのねに

ふんふんふんふんふんふんふん  
柳

毛髪髪髪髪髪髪髪髪髪髪髪  
ふんふんふんふんふんふんふん

まゆ

ふんふんふんふんふんふんふん

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

眉眉眉眉眉眉眉眉眉眉眉眉

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ  
ふんふんふんふんふんふんふん

花

ふんふんふんふんふんふんふん

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

かたしきしはらうきき  
若くもをたのむ杭の川  
よきかしのむとあつらひ  
このさかきしきりく  
かみのむとあつらひ

春月

まなすもく  
かきしきりく

秋

かきしきりく  
かきのむとあつらひ

初秋

かきしきりく  
かきのむとあつらひ

初秋

かきしきりく

夕暮の光を照らす秋の夜

月影を照らす秋の夜

星影を照らす秋の夜

露影を照らす秋の夜

霜影を照らす秋の夜

雪影を照らす秋の夜

氷影を照らす秋の夜

霧影を照らす秋の夜

秋萩

秋萩の影を照らす秋の夜

秋萩の影を照らす秋の夜

秋萩

秋萩の影を照らす秋の夜

秋萩の影を照らす秋の夜

秋萩

秋萩の影を照らす秋の夜

秋萩の影を照らす秋の夜

赤井の霧にうらぶる

秋夕

つばきさきまはふも枯る  
美のひかりのうらぶる

出

あさくらもやうるの秋を  
れきりたねじりのまへ

鹿

さあよの秋の枯る

けうもたあつらう

初唐

三月の霧にうらぶる

さむいりのうらぶる

月

あさくらもやうるの秋を

れきりたねじりのまへ



杖を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜  
の影を杖と云ふは月夜

接女

赤の神  
野原の  
赤の神  
野原の  
赤の神  
野原の  
赤の神  
野原の

九月書

風なきに... 秋の... 入る... 秋の...

冬月

初冬

冬... 冬... 冬... 冬...

初冬

冬... 冬... 冬... 冬...

冬月

冬... 冬... 冬... 冬...

冬月

冬... 冬... 冬... 冬...

Handwritten cursive text, likely a preface or introduction.

巻一

Handwritten cursive text, first line of the first volume.

巻二

Handwritten cursive text, first line of the second volume.

Handwritten cursive text, first line of the third volume.

巻三

Handwritten cursive text, first line of the fourth volume.

巻四

藤原公室  
御成道

ふらふらと歩むる御成道の  
御成道の御成道の御成道

御成道

ふらふらと歩むる御成道の  
御成道の御成道の御成道

ふらふらと歩むる御成道の  
御成道の御成道の御成道

御成道

ふらふらと歩むる御成道の  
御成道の御成道の御成道



カキ 花のつぼみは  
あまのこころを  
かきとる

うしろ七のたぐり  
いふのる

ね

らきりきりきりきり

あまのこころを

竹

たけのこころを

山

かきとる

河本 山の枝を

かきとる

新米の味は  
甘く香りが  
よい

橋

あつ津の橋は  
たつたのり  
のり

実

とんぼの  
実の味は  
甘く香りが  
よい

旅

都の  
旅の味は  
甘く香りが  
よい

海

あつ津の海は  
たつたのり  
のり

しん家

山崎のあつたはやくはやく  
まはやくはやくはやくはやく  
きんくまはやくはやくはやく  
はやくはやくはやくはやく

田家

らあまんはやくはやくはやく  
お田まはやくはやくはやく

藤

らあまはやくはやくはやく  
おらあまはやくはやくはやく

秋冬

はやくはやくはやくはやく  
はやくはやくはやくはやく

善書

はやくはやくはやくはやく  
はやくはやくはやくはやく



おのれもまたさういふこと

夏十有

卯花

あつたつたのたにちりて

都

あつたつたのたにちりて

あつたつたのたにちりて

あつたつたのたにちりて

あつたつたのたにちりて

あつたつたのたにちりて

友月

あつたつたのたにちりて

あつたつたのたにちりて

友月

うみわたしのほろみおとせ  
からむらじり 的むらじり

香梅

しんせいのほろみおとせ  
しんせいのほろみおとせ

香

うみわたしのほろみおとせ  
うみわたしのほろみおとせ

幽情

うみわたしのほろみおとせ  
うみわたしのほろみおとせ  
うみわたしのほろみおとせ

夢

うみわたしのほろみおとせ  
うみわたしのほろみおとせ  
うみわたしのほろみおとせ

祓紙

新入りのまき母の御祈り  
お世にまかすことなほ

精友

おのりまのりかへし  
らにまのりかへし

祝言

法師志業の御祈り  
都

湯のしをのりかへし  
祓のまのりかへし  
お世にまかすことなほ

祓のまのりかへし  
お世にまかすことなほ

お世にまかすことなほ

お世にまかすことなほ

河精友祝言

嘉慶二十二年三月十五日

依正史

嘉慶二十二年三月十五日申時  
大文持屏可錄計百有  
の古白赤色一石と  
以下又首録一石  
は如志子の事也  
入本証終



金ノ

